

見なおそう!

みんなの健康

日本赤十字社和歌山医療センター
http://www.2.kankyo.ne.jp/nisseki-w/

No.17

増加する大腸がん、最近の治療は？



外科部兼消化管外科部副部長
伊東 大輔 (いとうだいすけ)

れる便潜血検査が陽性になって診断される場合が多く見受けられます。

大腸がんの検査

大腸がんの疑いがあれば、肛門からチューブを入れて造影剤を注入する注腸検査や、大腸カメラと言われる下部消化管内視鏡検査を行います。

CT検査を行います。進行度と治療

がんが粘膜にとどまっていればステージ0で、大腸カメラで切り取る内視鏡的切除を行います。大腸の筋肉まで到達しているステージ1、大腸の筋肉を越えていけばステージ2となり、手術の対象となります。リンパ節に転移があればステージ3、肝臓、肺などの他臓器に転移していればステージ4と診断されます。

発する可能性が高く、再発を予防するために術後補助化学療法(抗がん剤による治療)を行います。

基本的には飲み薬ですが、点滴で投与することも可能です。術後1〜2カ月たってから半年間行います。

間で退院です。

腹腔鏡下手術は、術野を拡大するカメラを使用することで、より正確に見ることができ、十分な訓練、経験を持つ施設では、腹腔鏡下手術の方が安全で確実な手術と言えます。

大腸がんは、早期発見であればもちろん、進行してもさまざまな治療があり、治療を旨指せる病気です。

大腸がんは、平成28年のがん統計予測で罹患(りかん)数が増え、がん死が最も多く、がん死亡数予測でも肺がんに次ぎ2番目と、男女ともに増加傾向にあります。主な原因は、高齢者数の増加、高動物性タンパク質・高脂肪の食生活の欧米化などと考

えられています。こう書かれると、治療が難しいのではなにかと感じるかも知れません。しかし、便意を伝える働きを持っていて、まだ便が固まる前の盲腸、上行結腸、横行結腸では、なかなか症状が出ず、貧血やおなかのしこりで気づくことが多いです。便が固まってくる下行結腸、S状結腸、直腸では、腹痛、下血が主な自覚症状です。

早期であれば、症状はほとんどありませんが、検診で行われる転移の有無を調べる

早期であれば、症状はほとんどありませんが、検診で行われる転移の有無を調べる

早期であれば、症状はほとんどありませんが、検診で行われる転移の有無を調べる

早期であれば、症状はほとんどありませんが、検診で行われる転移の有無を調べる

早期であれば、症状はほとんどありませんが、検診で行われる転移の有無を調べる

早期であれば、症状はほとんどありませんが、検診で行われる転移の有無を調べる

早期であれば、症状はほとんどありませんが、検診で行われる転移の有無を調べる

早期であれば、症状はほとんどありませんが、検診で行われる転移の有無を調べる

早期であれば、症状はほとんどありませんが、検診で行われる転移の有無を調べる

早期であれば、症状はほとんどありませんが、検診で行われる転移の有無を調べる

これらの記事等は新聞社の承諾を得て掲載してまいります。